

JA全農ウィークリー

5
面

生産者と消費者の懸け橋へ 岩手と兵庫に「JAファーマーズ」出店

8面



カラーバリエーション豊富で統一感あるデザイン
の青果物出荷箱(8面)



夏の甲子園大会で準優勝した金足農高の渡辺勉校長(左)に「繁殖用雌牛(全農賞)」と「山形牛の肉100^{キログラム}(全農会長賞)」を贈った全農の山崎周二専務(4面)



新業態店舗として岩手県一関市に開店した「JAファーマーズいわて平泉」の関係者によるテーブカット①と兵庫県朝来市に開店し多くの買い物客でにぎわう「JAファーマーズたじま平田山」(5面)

2 生活クラブと米国でNON-GMO トウモロコシ視察(畜産生産部)

畜産生産部研究所をJA全青協が
視察(畜産生産部)

3 米新品種「雪若丸」 JAL国際線ラウンジで提供(山形県本部)

平成30年度JAグループ残留農薬分析 研究会を開催(営農・技術センター)

4 金足農高に繁殖雌牛 1 頭と山形牛の肉
100 キロ贈呈(広報部)

卓球少年・少女を「宮城県産米」で応援
(広報部)

6 全農海外輸出拠点紹介 (全農インターナショナル香港(株))

7 県本部だより(秋田県本部)

8 JAタウンショップ紹介

**Web版JA全農ウィークリーは
こちらから**



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

J Aグループ茨城の出荷用ダンボールが
世界的パッケージデザイン賞で銀賞

News!



米国のNON-GMOトウモロコシを視察

持続的供給へ生活クラブと一緒に種子会社や農家訪問

畜産生産部



生活クラブ理事と役員、CGBのケビン社長㊦、全農営業開発部の住田課長(右端)



NON-GMOトウモロコシを生産する農家を訪問

畜産生産部は、NON-GMOトウモロコシの米国からの安定確保を求める生活クラブと一緒に、米国産地の視察ミッションを実施しました。

産地視察は10月18日から28日まで行い、生活クラブ関係者と全農職員の合計18人が参加しました。

米国産地ではNON-GMOトウモロコシの種子を生産する種子会社や、NON-GMOトウモロコシを生産する農家、集荷・管理を行う全農子会社のCGB

社施設を訪問し、産地情勢や流通実態を学びました。

CGB本社では、生活クラブからCGB社に対し、現行のNON-GMOトウモロコシの長期種子供給協定(2020年までの5年契約)を、2021年からさらに5年間延長する要請が行われ、ケビン・アダムス社長はこれを快諾しました。畜産生産部は今後も米回国子会社と連携し、NON-GMOトウモロコシの持続的な生産と供給に努めます。

News!



JA全青協が畜産生産部研究所を視察

畜産生産部の研究・開発業務への理解を深める

畜産生産部

笠間乳肉牛研究室でネットワークカメラを用いた研究の説明



畜産生産部は11月1日、全国農協青年組織協議会(JA全青協)の役員を対象に、飼料畜産中央研究所(茨城県つくば市)と笠間乳肉牛研究室(同県笠間市)、家畜衛生研究所(千葉県佐倉市)の視察を行いました。

飼料畜産中央研究所では、

広大な敷地で鶏・豚・牛を飼育しながら、ゲノム技術やAIを活用した新しい技術・商品の研究開発、笠間乳肉牛研究室での搾乳ロボットやネットワークカメラを活用した、酪農現場の省力化を実現する次世代型酪農モデルの研究について

紹介しました。

家畜衛生研究所では、今春稼働した新クリニック検査棟を視察し、ロボットや最新機器による迅速な検査と、検査結果を踏まえた農家への予防衛生の指導体制(家畜衛生クリニック事業)について紹介しました。

両研究所の視察を通じ、畜産農家の生産性向上と省力化につながる研究・開発に取り組んでいることを理解していただきました。



家畜衛生研究所を視察したJA全青協の役員ら(新クリニック検査棟の前で)



米新品種「雪若丸」 JAL国際線ラウンジで提供始まる

山形県アンテナショップで記念イベント

山形県本部

日本航空株式会社（JAL）の国際線ラウンジで11月1日、今秋本格デビューした山形県産米新品種「雪若丸」の提供が始まりました。山形県本部が納入し、東京国際空港（羽田）と成田国際空港のJAL国際線ファーストクラスラウンジとサクララウンジの食事に使用されています。

JALでは、これまで同じ山形県産米の「はえぬぎ」を使用。「雪若丸」のしつかりした粒感と粘りのバランスが取れた特性に高評価をいただき、今回の採用に至りました。インターネット

交流サイト（SNS）で人気を集めている「JAL特製オリジナルビーフカレー」とも楽しみたいだけです。初日の11月1日には、東京都中央区銀座にある山形県アンテナショップ「おいしい山形プラザ」で記念イベントを開催。来店した先着555人に「雪若丸」1合シート2個のプレゼントや試食などを行いました。



山形県アンテナショップ「おいしい山形プラザ」で開かれたイベントに出席した後藤和雄山形県本部長（前列右）、竹田亨JAL経営企画本部長（前列左）と和食



JAL国際線ラウンジで提供される「雪若丸」使用の「ラウンジカレー」(左)と和食

他機関交えた研究会で残留農薬分析のレベルアップ図る

「平成30年度JAグループ残留農薬分析研究会」を開催

営農・技術センター

営農・技術センターは10月18、19日、「平成30年度JAグループ残留農薬分析研究会」を開きました。

研究会は残留農薬分析に関する知識・技術向上と情報交換を目的として2001年から開催し、今年で18回目を迎えます。今回はJAグループを中心に31団体から49人が出席しました。

研究会では、まず専門家による講演会で、「膜ろ過を

用いた残留農薬の簡易、迅速精製法の開発、膜ろ過精製法について」（三浦工業（株）・岡本講師）、「キユーピーグループの安全・安心の取り組み」（キユーピー（株）・工藤講師）、「ほうれんそうを用いた外部技能試験（概要と講評）」（日本食品分析センター・中村講師）について講演いただきました。



営農・技術センター残留農薬検査室の分析操作風景を見ながら意見交換する出席者

その後の意見交換会は新しい試みとして、「残留農薬分析操作を見直す」ことを目的に、営農・技術センター残留農薬検査室の分析操作風景のビデオを見ながら操作のポイントを協議する形式で行いました。各参加機関との操作方法の違い、考え方の違いなどを確認でき、有意義な企画となりました。全農では、今後も同研究会を開催し、JAグループの残留農薬分析のレベルアップと相互理解を図っていきます。

News!



全国の農業者に勇気と感動を与えてくれた

金足農高に繁殖雌牛1頭(全農賞)と山形牛の肉100*。(全農会長賞)贈呈

広報部



金足農高の渡辺校長(左)に「繁殖用雌牛(全農賞)」と「山形牛の肉100*。(全農会長賞)」を贈った山崎専務



金足農業高校に贈られた繁殖用雌牛(ふゆこ号)

このほか、JA全農北日本くみあい飼料(株)からも繁殖用雌牛のための飼料1年分が贈呈されます。

贈呈は、同校が今年の夏の甲子園での活躍により、全国の農業高校関係者、農業関係者に勇気と感動をもたらした功績をたたえたものです。

かりと育ててたくさんのおいしい牛を生産してほしい」と期待を寄せました。

渡辺校長は「地元JAや全農からの応援や支援が、生徒の活躍につながった。いただいた山形牛の肉は11月24日のバーベキュー大会で関係者に振る舞いたい」とお礼を述べました。

全農は11月14日、秋田県立金足農業高校(秋田市)を訪れ、第100回全国高等学校野球選手権記念大会での準優勝の活躍に対し感謝と応援の思いを込め、同校の渡辺勉校長に全農賞として「繁殖用雌牛(名号…ふゆこ)」を、全農会長賞として「山形牛の肉100*」をそれぞれ贈呈しました。

News!



次世代を担う子どもたちを「宮城県産米」で応援

平成30年度全日本卓球選手権大会(カデットの部)上位入賞者に贈呈

広報部



入賞者へ宮城県産米を贈呈



塩むすびの配布や「石川佳純カレー」を販売した全農ブース

大会には予選を勝ち抜いた約850人が出場し、熱戦を繰り広げました。開会式で全農の山崎周二専務は「練習に耐える体力も、体の成長も、日々の食事に支えられている。しっかりと飯を食べて、海外でも活躍できる立派な選手になってください」とエールを送りました。

全農は、入賞選手へ宮城県産米「ひとめぼれ」を合計1440*と、今年度本格デビューした、もっちりとした食感が特徴の「だて正夢」のパックご飯を1人1ケース贈呈しました。

また、会場内の全農ブースでは、宮城県産米のPRとして「ひとめぼれ」の塩むすびやパックご飯を来場者に配布したほか、「石川佳純カレー」の販売を実施。大行列ができるほどの人気ぶりでした。

中学生以下の卓球大会、平成30年度全日本卓球選手権大会(カデットの部)の全国大会が11月2〜4日、仙台市で開かれ、全農が特別協賛し、上位入賞者に「宮城県産米」を贈りました。

生産者と消費者の懸け橋へ JAファーマーズ出店

(新業態店舗)



株式会社エコープ近畿と株式会社Aコープ東北はそれぞれ、兵庫県と岩手県に大型農産物直売所とスーパーマーケットの一体型店舗を出店しました。 【生活リテール部】



兵庫県朝来市に

「JAファーマーズ・たじまんま和田山」

(株)エコープ近畿

(株)エコープ近畿は10月25日、兵庫県朝来市に「JAファーマーズ・たじまんま和田山」を出店しました。初日から3000人を超える来店客でにぎわいました。同店は、ファーマーズ型の店舗(新業態店舗)として出店し、同社では2店舗目、兵庫県では初出店となります。

地元JAたじまの2号店となる農産物直売所「たじまんま」のほか、「但馬牛」やAコープの産直ブランド肉をメインに展開、お肉の総菜「ミートデリカ」を導入し、日本海の魚を中心に対面販売も行うなど、生産者と消費者の懸け橋となる店舗運営に努めてまいります。

初日は多数のお客さまが待ち受けるなか、来賓の尾崎市朗JAたじま組合長ほか関係者によるテープカットを行い華々しく開店し、初日の売り上げは900万円を超えました。



▲開店直後、駐車場は満車の状態に



◀お客さまでにぎわう農産物直売所「たじまんま」



岩手県一関市に

「JAファーマーズいわて平泉」

(株)Aコープ東北



▲新業態店舗の開店を祝いテープカットする関係者



◀初日から多くの来店客でにぎわう店内

(株)Aコープ東北は11月1日、岩手県一関市に「JAファーマーズいわて平泉」を出店しました。初日から3000人を超える来店客でにぎわいました。新業態店舗としては、同社では初出店、全国で20店舗目となります。

地元JA管内や県内からの産直品と、「いわて南牛」をはじめとした県産・東北産のお肉の品ぞろえなど、和田山店と同様にJAグループの商品調達力を活かした地域一番の国産農畜産物品ぞろえの店舗を目指します。

初日は多数のお客さまが待ち受けるなか、来賓の佐藤鉦一JAいわて平泉組合長ほか関係者によるテープカットを行い、華々しく開店し、初日の売り上げは750万円を超えました。

JA全農グループは、「国産農畜産物の販売力強化」の実現に向け、農産物直売所一体型の「JAファーマーズ」の出店を今後も進めていきます。

全農 海外輸出拠点 紹介

最終回

全農インターナショナル香港株式会社

日本通の市場へ安全・安心加え売り込み

全 農インターナショナル香港株式会社（全農国際香港有限公司）は、2018

年4月に中華人民共和国香港特別行政区に設立されました。現在は駐在員1人、営業担当1人、委託営業担当1

人で香港・マカオ地区を営業エリアとして活動しています。

香 港は人口741万人、東京都の半分ほどの広さ

ですが、中国本土をはじめとして年間5800万人が観光やビジネスに訪れることが

ら、人口以上の購買力があると言われていました。特に9月には広州と香港を45分で行く新幹線も開業し、10月にはマカオを結ぶ世界最大の橋も開通しましたので、今後、一層の人の往来が予想されています。

そ のような中、香港はここ数年ずっと日本ブームが続いており、日本食も広

く浸透しています。市内を歩けば日本の有名ラーメン店がたくさんあり、コンビニの商品ぞろえは80%が日本商品となっています。

こ のような成熟市場に進出したわが社ですが、

各JA産地の方々がそれぞれ青果物、コメなどのプロモーション活動をしてきたことから、

「JAブランド」が一定程度普及しており、バイヤーの皆さまと早速、いろいろな商談を行っております。香港から年間223万人のインバウンドの影響かもしれません、バイヤーの方も日本全国各地のあらゆるものをよくご存じで、地域限定のような少々マニアックな商品を相談されることがあります。

さ らに、最近の香港市場では日本産の高品質は当たり前で、日本の安全性とい

う観点でトレーサビリティや生産履歴管理に関する質問をされることもあることから、成熟市場ならではの品質フラスアルファの差別化を求められているのは日本と同様かもしれません。

私 たちは、そのようなお客様とJA商品のバリエーションの構築をお手伝いすることによって、日本の生産者と香港の消費者を安心して結ぶ橋になれるよう努めてまいります。



左から駐在員の金築道弘総経理、エリザベス・チャンさん（営業担当）、シビック・チャンさん（委託営業担当）



輸出拡大に向け取引先と商談



全農インターナショナル香港株が入るHopewell Centreビル

県本部 だより

秋田県本部



「京急あきたフェア」が10周年 秋田の魅力を首都圏へ発信 京浜急行電鉄と秋田県本部の共同企画次々と

秋田県本部は平成21年か
ら、京浜急行電鉄株式会社
との共同企画として「京急

あきたフェア」を毎年開催し
ています。このイベントは、
秋田県が、首都圏での県産

輪WEST」にテナントとし
て出店したことがきっかけ
でスタートしました。

**食の大切さや環境配慮の
必要性を学び消費者へ伝える**

品のため、アン
テナショップ「あ
きた美彩館」を京
急グループの施
設「ウイング高

京急グループ社員がお米
の生産過程を実際に体験す
ることで食物の大切さや自



京急グループ社員が応援プロジェクトで稲刈り



京急百貨店での「あきたecoraisu」販売促進

然環境への配慮の重要性を
あらためて感じ、販売活動
に生かす「あきたecoら
いす応援プロジェクト」もこ
の年にスタートしました。環
境にやさしいお米「あきた
ecoraisu」の田植えから
稲刈りを行い、京急グルー
プの百貨店やスーパーなど
で京急オリジナルの米袋で
販売しています。多くのお
客さまから、とがずに炊け
る無洗米の販売をご要望い
ただき、今年からラインナッ
プに加わりました。

**「京」急と「秋」田の
絆で皆さまに「恵」を**

今年、フェア10周年に加え
「京浜急行電鉄創立120
周年」を同時に迎えること
を記念し、平成29年に「京
急オリジナル日本酒をつく
ろう!!プロジェクト」を発
足しました。湯沢市酒米研
究会・秋田銘醸株式会社・
JAこまちの協力で、京急
グループ社員が酒米の田植
えから酒造りまで取り組み、
完成した純米吟醸酒「京秋
の恵」は数量限定2000

本で発売しました。

また、秋田県産うるち米
の生地にも男鹿産の甘エビを
練り込んだ揚げ煎餅「淡雪
ふわり」もオリジナルのパッ
ケージで発売しました。

ほかにも首都圏在住の女
性を対象に「あきたのお米と
食・日本酒を楽しむ日本酒
女子会」などさまざまなイベ
ントを開催し、秋田の魅力を
首都圏でPRしています。

秋田県本部は、今後も京急
グループ・県と連携を図り
ながらフェアの充実を進め、
首都圏における秋田県産農
畜産物の認知度向上とファ
ン拡大に努めていきます。



京浜急行電鉄と共同開発した新商品



JAグループ茨城の青果物出荷箱統一意匠デザイン

世界的デザインコンペ 「ペントアワード2018」で銀賞



「いいもの いっぱい いばらき」のロゴ

「ペントアワード」は、パッケージデザインに特化した世界で最も権威あるコンペティションといわれています。JAグループ茨城が昨年春から採用した、青果物出荷箱用のデザインが、見事食品部門で銀賞を受賞しました。今回、このデザインを制作したレンゴー(株)が出品し、9月6日にはニューヨークで授賞式も行われました。【茨城県本部】

カラーバリエーション豊富で統一感あるデザインの青果物出荷箱



(レンゴー(株)提供)

JAグループ茨城の青果物出荷箱の統一デザインは、「笑顔になれる農業」をコンセプトに、従来の5本ラインのグラデーションのデザインから、「いいもの いっぱい いばらき」と大きく表示したデザインへと、大幅にリニューアルしました。消費者

のうれしい笑顔と、そしてそれが生産者の笑顔につながって、共に笑顔になれるようにとの願いが込められています。

茨城の青果物は、首都圏を中心に全国各地に出荷しているほか、海外への販売にも力を入れて

おり、茨城が主力産地となっているメロン・サツマイモ・梨などが輸出されています。輸出品目や仕向け先を増やしていくなか、今回のデザインが受賞したことで、海外でも認知される良い機会となりました。



「食と農」の情報を広く消費者へ!
スマホアプリを公開中

JA全農のイベントや新商品に関する最新情報がさらに充実!

作動環境: スマートフォン iOS8以上 Android4.3以上



JAタウン
ショップ紹介

JAタウン |

検索
クリック

タウンショップみやぎ(全農みやぎ)



【新米だて正夢 5kg 精米 平成30年産】
3160円



米どころ宮城の新品種「だて正夢」。もっちりとした食感と甘みの強さが特徴のお米で、かむほどに甘みが溢れ出し、お米本来の味わいが堪能できます。

仙台藩主・伊達政宗公を彷彿とさせる名前により「宮城らしさ」を表現するとともに、宮城の復興と、このお米で「食卓の天下をとる」という願いが込められています。

炊きたてはもちろん、冷めても味や香りの評価も高いお米ですので、じっくり、ゆったりと贅沢な時間を演出するプレミアムなお米です。ぜひ、この機会にご賞味ください。

なお、ご紹介した商品は、12/7(金)まで、FAXでもご注文を承ります(ご自宅宛代金引換のみ)。

【ご注文方法】①商品名、規格、数量②郵便番号③住所④氏名⑤電話番号⑥FAX番号をご記入のうえ、FAX番号03-5218-2517までご送信ください。
商品代金のほか、送料が必要となります。

JA全農のインターネット
ショッピングモール

▶ご注文は <http://www.ja-town.com>

▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報、商品等の発送にのみ使用します。